



## 新型コロナウイルス感染症について思うこと



私達、NPO法人輝け酒々井まちづくり研究会は、町民の皆様が楽しく心豊かに生き甲斐をもって暮らすには、皆様一人ひとりが人との関わりに関心を持ち、外に出て友達を作り、共に語り合うことが必須と考え、皆が集う場所と機会を、提供する活動を行ってまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の発出により音楽会を始め多くの行事が全て中止を余儀なくされ、活動が出来なくなりました。

また、この感染症予防のため国や自治体からあった自宅待機の要請が、やむを得ない処置とはいえ、長期に亘るとこんなにも精神的苦痛を与えることとは思いませんでした。最初の1、2週間は、家族間の会話も続き日頃話す機会がなかった話題も俎上に昇り、あれこれと話が進みましたが、待機が長くなると話題も無くなり会話も途切れ、家族それぞれが個室待機に成りました。また、日頃の生活の中で多くの人と触れ合いが日常生活を支える上で重要なことも痛感しました。

私達のNPO法人では、日常の情報交換は、E-Mail や LINE によって行っていますが、この情報交換だけでは、十分に意思の疎通が計れず味気無くなりました。このため TV 会議が出来る ZOOM も利用しましたが、従来の会議に比べ、充実感は得られませんでした。人を対象とする住民活動や介護などの仕事では、従来の顔を見ながら触れ合うコミュニケーションでないと十分に真意が伝わらないことも良く解りました。

加えて、国内では、これまで先送りし表に出なかった、社会の仕組みの脆弱さが、この感染症によって表面化し解決を求められています。これは、日本だけの問題ではなく先進国の米国やEUに於いても同様のことが起こりこの問題解決が急務となっています。また、新型コロナウイルス感染症の問題では、生活の多様化によって、希薄になりつつある人情、心の持つ温かさや思いやりの共助精神が醸成され、これが私達の心に清涼感を与える出来事も沢山目にしてきました。

何はともあれ一日も早くこの新型コロナウイルス感染症の問題を克服し感染症から解放されることを願っています。このためには、私達一人ひとりが、自己管理を徹底し自分の命を大切に、他人に迷惑を掛けない責任ある行動を取るこの重要性を実感している今日この頃です。



## 「しすいみんわ絵本」第2弾刊行

酒々井町では、昨年製作された「酒の井」「カンカンムロ」「小僧と天狗・文珠寺の桜」に続き、今年には、「ひとつくんねどとおせんぼっこ」絵：亀澤裕也、「ぼたもち喜兵衛」絵：ハラアツシ、「高野台のかんのん様」絵：水野プリンの三冊が刊行されました。いずれも巻末にはしすい在住の小石川カナリさんが描いた「おせんちゃん」とめじろうの民話の町しすいあんない」が掲載されています。

絵本は、町内外の幼稚園、保育園、小学校、図書館等約五百か所に贈呈されました。

今後も、日本で一番古い町「ふるさと酒々井」を次の世代へ伝えていくため継続刊行が予定されています。

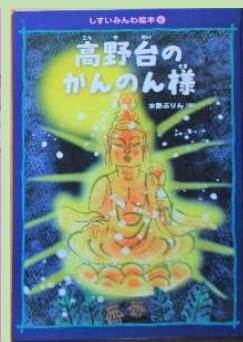


おせんちゃん

JR 酒々井駅の駅文庫にもありますので、是非お手に取ってご覧ください。



めじろう



## 妙見神社 (みょうけんじんしゃ)

妙見神社は、インドに発祥した菩薩信仰が 7 世紀ごろ日本に伝来したもので、北極星や北斗七星を神格化したものです。北極星が不動の星であり宇宙の全てを支配する最高神として崇められていました。

妙見とは、「妙なる視力」事の善悪や真理をよく見通すという意で信仰されるようになりました。千葉氏は始祖の平良文が上野国群馬郡染谷川で平国香と戦った際に、妙見が現れて危機を救ってくれたという伝承から妙見菩薩を信仰し、一族の守護神として一族の城や社寺を建てる際には妙見菩薩を勧請して祀るようになりました。

現在、千葉県内には 241 社の妙見社がありますが、下総を中心とした妙見社は千葉氏との関係が深いといわれています。町内には妙見神社が根古谷と猿楽場に 2 社あり、他に合祀され小さな祠に祀られている妙見社は酒々井、墨、上岩橋など各地にあります。



猿楽場妙見神社

根古谷の妙見神社は、もともとは本佐倉城の守護神として城内奥ノ山に建っていました。天正 18 年(1590 年)小田原決戦で北条氏に味方して参戦し敗れて千葉氏は滅び、その後の支配者は、家康の五男武田信吉の統治となって、本佐倉城跡南面の中腹に移されました。祭神は香々背男命(かがせおのみこと)です。

猿楽場の妙見神社は本佐倉字猿楽場にあり、妙胤寺の北東 400m ほど入った山中に祀られており、日ごろは訪れる人も稀な閑寂の地にあります。祭神は根古谷の妙見神社と同じく香々背男命です。

千葉氏に関わる 2 つの妙見神社を是非訪れてみてはいかがでしょうか。



根古谷妙見神社

### 活動紹介

## まちの安心・安全を守る しすい防犯パトロール「ブルドックス」

自分たちの住んでいる町は自分たちで守ろうと、しすい防犯パトロール「ブルドックス」が平成 15 年に設立され、今年で 18 年目を迎えています。歴史ある静かな町に団地が開発され、人口が増えるにつれて犯罪が多発して、変わりゆく町の危機を実感した仲間が集まり、「安全・安心のまち」を目標にボランティア団体をつくりました。団体名は、「安全・安心のまちづくり」の番犬となるべく「ブルドックス」と名付けました。活動は、地区の防犯パトロールのほかに防犯意識を高めるための啓発・広報活動、小学生のスクールガード、青少年の健全な育成に向けた活動等を目指しています。

会員の活動のおかげで、最近は犯罪件数も当初の 3 分の 1 ぐらいまで減ってきています。私たちには、警察のような法律による取り締まりはできませんが、普段のパトロール活動等の粘り強い活動が抑止力となって犯罪を防ぐことに必ず繋がっていくものと確信しています。町や警察、自治会とも協力し、「犯罪ゼロ」を目指して活動していきたいと思っています。



防犯ボックス前での集合写真



パトロール中

昨今、新型コロナウイルス感染症の拡大は収まりつつあると思いますが、第 2 波、第 3 波の恐れも消えていません。「緊急経済対策として国民一人当たり一律 10 万円の給付」を狙う「電話 de 詐欺」や経済的困窮による犯罪が増加する恐れもありますので十分気をつけましょう。

現在、会員は 55 人で活動していますが、会員の高齢化が進んできていて、活動できる会員の数がだんだん減ってきているのが心配なところです。

「まちの安心・安全を守る」ために心ある人の参加をお待ちしております。いっしょに「まちの安心・安全」を守りませんか。

### 編集後記

コロナ禍に加え、今回の集中豪雨で被害を受けられた各地の方々には心からお見舞い申し上げます。

ここ数年、「50 年に 1 度」とか「かつて経験したことのないような」といった形容の付く自然災害が頻繁に発生しています。これからまた台風が多く発生する季節となりますが、「50 年に 1 度の災害」というのは、遭遇したら以降 50 年は大丈夫というのではないことを肝に銘じ、対策を怠ることの無いよう気を引き締めていきましょう。

自治会紹介は、次回、「酒々井区」について紹介の予定です。